

児童発達支援に係る自己評価結果公表用

公表日:令和2年2月26日

事業所名: 尼崎市立あこや学園

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室やホール、園庭など整備環境面で配慮されている(2) ・親子通園の時には狭いと感じる(特に大クラス)(4) ・トイレはもう少し広い方がスムーズに動けると思う ・雨の日は、過ごし方・場所を工夫しているが狭く感じる(4) ・スペースは十分確保されている(5) ・大クラス8~9名だと少し手狭に感じるが、物の配置を工夫して使用している 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室、ホール、園庭、どこも広く確保されている(2) ・子どもの人数に対して、とても広い園庭で満足している 	
	2 職員の適切な配置	<ul style="list-style-type: none"> ・配置基準(4:1)は守られているが、個別対応、介助が必要な子どもを考えると十分とは言えない(7) ・今年度は、育休代替えアルバイトが補充できず欠員状態で、保育士以外の職員(心理士、看護師)も保育に入らないと体制が組めない状態(2) ・急な職員の休みに対応できるよう、フリーの職員がもっと必要だと感じる(1) ・バス添乗員がもう1人いるとクラス担任の負担が減ると思う(4) ・人員配置は適切だが、職員の出張や休暇を考えると足りない(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の人数が足りない時は、園長、副園長、チーフもすぐにヘルプで入って下さっているし、看護師、STの先生もおられて十分だと思う(1) ・つきっきりで見なくてはいけないお子さんがいる場合は、先生を1人増やして頂ければありがたい ・体調を崩されている先生方がいるので、他の先生への負担が大きいのではないかと心配 ・どちらともいえない 	配置基準を守りつつ、必要に応じ担任以外の応援体制を取っている。安定した保育士の配置が出来るように、また専門職の十分な配置についても、保護者のニーズに応えられるように、努力する
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	<ul style="list-style-type: none"> ・絵や写真など視覚支援を取り入れ、見通しを持って過ごせるようにしている(5) ・視覚支援や声かけや支援に工夫をし、子どもの目線に立った配慮をしている(9) ・必要に応じて仕切り(目かくし)を使用したりして環境整備している ・小さい子どもには洗面台に台を置くなど工夫している ・雨が降った時に、バスの乗車時園児が雨にぬれてしまう(屋根がないため) ・プールのシャワーコーナーの段差は危険と感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・各場所に視覚支援もなされていて、見通しもつきやすい(1) ・トイレについても入り口が広く入りやすい 	
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・裸足でトイレに行くのは衛生的にどうなのか、疑問を感じる ・ジェスパで手指消毒や室内の消毒を行い安心できる(5) ・毎週月曜日に安全点検を行い、業者の方の清掃以外にも保育室を清潔にしたり、おもちゃの消毒や点検を行い環境を整えている(7) ・朝の安全確認、環境整備を行っている。各クラスによる差があることを感じる。(整理整頓含む) ・衛生面に気をつける、注意していく意識を職員全員が持ち、生活空間を確保している ・ひよこ組は、洗面台にアクアガードを取りつけ、手洗いがしやすくなった ・玩具の置き場は、子ども達に合わせて配置を考えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも清潔でありがたい(2) ・基本的に清潔ですが、たまに給食後の床などが掃除をしてもベタベタする時がある ・保育室は、各クラス工夫されていて楽しい空間になっている ・裸足保育の季節にトイレにもそのまま裸足で行く事が気になっていた ・寒い時期、便座にカバーをつけているが交換はきちんとされているのか気になる ・活動に合わせておもちゃに目かくししたり、助かっている 	新たな感染症にも対応する必要があることから、衛生管理を見直し強化していく
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	<ul style="list-style-type: none"> ・業務、行事ごとに、こまめに反省会をしたり、毎年記録している(1) ・行事では実施後の振り返りを行い、次回に活かせるようにしている。新たな意見は出にくいことが多い ・全体会議で報告し、全体で情報を共有し、業務改善に努めている(9) ・業務の中で時間を見つけて、職員同士で反省や話し合いを設けている 		事業団で今年度から始まった、新規採用職員向けの育成プログラムを定着させる
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・未実施 		
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・研修参加職員による伝達研修を行う。今年度は、職員体制の都合上、外部研修に参加することが難しい(2) ・定期的に案内があったり、事業団内での研修が行われている(1) ・年に数回の全体研修、ケース会議など行われている ・全体研修で提示されている分については参加できている(3) ・研修の案内は随時あるが、研修になかなか参加できない(2) 		職員の希望をふまえながら、外部に研修参加の機会を増やせるよう努力する

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> 各々努力はしているが、体制的に難しいクラスもある 保護者、子どもの願いを記入して頂き、それに基づいて目標設定をしている。新入園児の計画をたてる時は児発管も一緒に話し合う 職員間や担任間、職場全体の会議等で情報共有、意見交換など重ねて適切に進められている 担任間で話し合い、必要に応じてチーフに助言をいただき作成している(7) 年度初めに保護者へのアンケート(意向、希望)をとって個別支援経計画にも反映させている 3期に分け、発達に沿った個別支援計画を作成し、保護者へ説明し理解を得て取り組んでいる 		
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> 通常は、クラスでの設定保育と全員の自由遊びだが、火曜日保育(母子通園)の日は個別保育を取り入れている 火曜日保育(母子通園)の個別保育は少ないが、日々の療育の中で個別の取り組む課題を意識している(1) 日々の園生活の中で1人1人に応じた個別的配慮、保育、クラス保育(療育)など計画に基づいて進められている(4) 個人としての成長と集団活動をする中で社会性の力を育てられるよう心がけている 個々の特性や成長に合わせ活動内容を考えてクラス運営している(1) 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの様子をしっかりと見て頂いて、作成して下さっている 時間をかけて子どもの最近の様子や今後どうなって欲しいかなど聞き取って頂けるので、いつも作成された計画に満足している その時々状態に合わせて、考えて頂いている あまり大きな変化がないにもかかわらず、小さな成長を計画に反映して頂いている 小さな成長を感じられて嬉しい 保護者の意見を聞いて頂いている 	個別活動と集団活動の取り組み方については、保護者から一定の評価は頂いているが、現状に満足せず今後もより質の高い療育を目指した努力する
	3	児童発達支援計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	<ul style="list-style-type: none"> 発達、家庭支援、地域連携ごとに必要な目標を立てている 本人支援については、身辺面、社会性、遊びの3つの大きな柱から1つずつ目標を立てている 個々の支援を考え手立てなども子どもの姿に応じて、具体的な内容を記載することを心がけている(5) 個別支援計画の作成や特記事項の作成など定期的な書類の作成を通して形にしている 目標に合わせた手立てを考え、丁寧な支援内容を細かく記載している(1) 保護者にわかりやすい内容を意識して作成している 		
	4	児童発達支援計画に沿った適切な支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> その都度意識はしているが、日々の支援に十分に落とし込めていないこともある(特にクラス担任以外が対応する時) 個別支援計画に沿って担任間で共有し、統一した支援を実施できている(3) 普段の療育で目標を意識しながら子どもと関わっている(1) 経過を見直し、達成できているところは、新たに目標を設定している(2) 担任同士で話し、また児発管からもアドバイスを受けながら進めている(1) 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもに合わせてながら、計画に沿った支援がなされている(2) 	
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	<ul style="list-style-type: none"> 会議やクラス、学年間等で話し合い、日々の活動内容を立案している(5) クラスだよりを作成する際に、1ヶ月の保育内容を担任間で検討し実施している(4) 		療育の充実を図るために、各クラス間だけではなく、職員会議で意見を出し合っていく場を持つようにする
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	<ul style="list-style-type: none"> 休日・長期休暇に関する支援は、明確ではない 平日は、園での姿を電話や連絡帳で伝え、家庭と子どもの姿を共有している(4) 休日や長期休暇は個々に応じて、過ごし方の確認をする等、安心して過ごせるよう連携している(3) 長期休暇の際は、園庭開放を行う等、保護者の負担にならないようにしている(2) 夏休みなどは、保護者の疲労が予測されるため気をつけている 長期期間を見通して支援計画を立てている。期間途中で見直す等子どもの姿と照らし合わせながら進めている 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢や時期に合わせて、色々なプログラムを考えて下さっている(2) 	
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	<ul style="list-style-type: none"> 屋内でのプログラムは工夫されているが、戸外にももう少し工夫が必要 1人で考えるのではなく職員同士でアイデアを出し合い工夫しているが、内容によっては固定化してしまっていることもある 子どもの様子に応じて、クラスで話し合っている(2) クラスや年齢に応じて、その時の子どもの姿を大事にし、担任間で話し合いながら立案している(3) 様々な活動を通して色々な経験ができるように工夫している(2) 		療育内容(クラスの設定保育)の検討会の開催を検討する

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 勤務(バス添乗当番など)によって当日に行えないこともある。しかし、工夫して時間を作り共有できるよう努めている 勤務時間の違いやバス添乗の関係で、十分にできないこともある(1) バス添乗があたりすると、出来ていないこともある。先々の確認が出来るクラスと、そうでないクラスがあるように感じる 極力できるようにしている。各クラスでも前日の準備や当日の朝に療育内容を確認している(3) 担任間はもちろん年齢ごと場合によっては職員全員に周知、共有し、確認している クラスのリーダーやサブの役割を元に話し合っている(1) 事前に活動の内容の確認をし、役割を決めて支援が行き届くように配慮している 		
	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	<ul style="list-style-type: none"> 勤務時間の違いやバス添乗の関係で、十分にできないこともある(1) バス添乗があたりすると、出来ていないこともある。先々の確認が出来るクラスと、そうでないクラスがあるように感じる 勤務(バス添乗当番など)によって当日に行えないこともある。しかし、工夫して時間を作り共有できるよう努めている(2) 何気ない事、少しの事、必ず伝えることなど様々な情報を共有するように、ホウレンソウ(報告、連絡、相談)の徹底 毎日保育日誌を書いているので、その時に担任間で振り返っている(2) 毎日、その日の反省や良かったことも共有している 		
	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	<ul style="list-style-type: none"> 人員配置が整えば、日々の記録を児発管、管理職等が確認できたほうがよい 保育日誌を毎日記載し、子どもの日々の姿や状況を振り返ることができている(6) その都度反省会を行い、全体(大クラス、小クラス)で共有している(1) 毎日の日誌の記入、時には特記事項の記入、職員間での伝達などを実施している(5) 		
	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 年間の中で定期的(学期ごと)にモニタリングを実施、見直しを行っている(13) 子どもの姿に応じて見直し、達成状況によっては再度計画の再設定を行っている(2) 		モニタリング会議後に行っている個別支援計画作成会議の記録を残していくようにする
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	<ul style="list-style-type: none"> 担任、児発管、(副園長)が必要に応じて参加している(8) 		
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> 事業団全体で感染症の認識が向上できるように、情報交換、資料作成による共有化を図っている(1) 		新たな感染症にも対応するために、さらに情報共有に努めるとともに、改善すべき点があれば速やかに実施する
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 主治医に指示書を頂きマニュアルを作成し、保護者に確認後、全職員で周知し、必要な時に看護師が対応している(9) 緊急時には、嘱託医と連携して、看護師が対応できるようにしている 園で気になる症状があれば保護者に確認後、文書で担当医に伝えたり必要時は受診に同行している(5) 		
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	<ul style="list-style-type: none"> 就学就園前には引継ぎを行い、卒園後はアフターケアを行っている(9) 保育所等訪問支援事業の説明も行い、必要に応じて行っている(5) 		地域の小学校で実施しているオープンスクール等の情報を保護者に伝えることで、地域との交流や進路決定の一助になるようにしていく
	5 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	<ul style="list-style-type: none"> 園児の利用している事業所と個別支援計画の共有を行い、支援の方向性の確認をしている(3) OT等の見学に行っている(2) 毎年関係機関懇談会を実施し他機関と交流し情報交換をしている(4) 研修についての情報告知がされている 		

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
6	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・2歳児クラスは、年度の後半に実施する(年2～3回) ・小クラスは、11月以降に実施する(年4回程度) ・大クラスは、年間を通じて保育所交流(公立保育所・私立保育園)やリズム交流(私立保育園)を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の11月に入園したばかりで、まだその機会がない ・保育所、リズム交流等で、一緒に遊び遊べる機会があった(1) ・年中になると、交流する機会も増えてありがたい ・機会はあると思うが、感染症が出ていたりして中止になることもあり、満足に交流が出来ているとはいえない ・見学はしていないので様子はわからないが、年に数回ある ・お喋りが出来ないなので、見学してみたい ・保育所交流以外にも地域の小学校と交流できる機会があればいいと思う ・感染症の少ない時期に実施してほしい 	2・3歳児は運動会終了後に、私立保育園との交流を設定している。そのため、感染症の流行の時期と重なり回数が確保できないこともある。しかし、新入園児が多いため、前半は園での生活に慣れることと園児同士での交流を十分図ることに重点を置いている	
	7	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・週に1日園庭開放を実施している(9) ・あまりない 		
保護者への説明責・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に、園長が行っている(9) ・変更事項があった場合は、その都度親の会で説明している 	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと丁寧に説明されている(1) 	
	2	児童発達支援計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談、家庭訪問等で行っている(12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問、個人懇談などで説明されている(1) 	
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・11月より実施する(11) 	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児母が対象だが、ペアレントトレーニングは行われとも勉強になる ・ペアレントトレーニングをもっと全員対象に発信して頂きたい(1) ・参加できる人数が限られているので、希望者全員出来るといいなと思う 	次年度も実施を予定している。対象や参加人数については今後検討していく
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・担任、児発管を中心に共通理解に努めている(連絡ノート、電話でのやりとり) ・連絡帳、電話、火曜日保育時の直接の話し合いなどを通じた情報を伝え合っている(14) ・心がけているが、職員によって差はあると感じている 	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や健康ノートがメインだがきちんと伝えて下さっている ・連絡ノートや火曜日保育の時や電話で子どもの様子をこまめに教えて頂いている(2) ・先生方の配慮にいつも感謝している 	
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・担任間で話し合い、状況に応じて専門職、管理職もまじえて対応している(3) ・常時保護者からの相談に応える体制、意識を持って対応している(2) ・火曜日保育等で直接お話ししたり、連絡帳でのやりとり等、情報を共有してその都度支援を行っている(4) ・相談内容によって、専門機関へとつないだり連携し対応している(2) ・心がけているが、職員によって差はあると感じている 	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談や火曜日保育等でも、子どもの様子やアドバイスを頂いている(2) 	
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に実施している(親の会、役員会)(9) 	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ会に参加できていない ・親の会、クラス懇談等で保護者同士が話す機会があり、きちんと支援されている(2) 	保護者同士の連携が十分に図れるよう、保護者のニーズに対応した親の会の開催方法について協議していく
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情はすぐにチーフ、副園長、園長へ報告し、迅速に対応している(7) ・クラスのことはクラス間で話し合い、副園長、園長に報告し適切な対応を行うとともに、職員間でも周知している(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情になる前に誠意を持って対応されていると思う ・説明は受けたが、実際に苦情を言う状況になっていない ・先生も忙しそうだし、言いたいことがあっても「保護者(母)のわがままと思われられないだろうか？」と気にしてしまい、意見を言いにくい ・対応してくれている 	
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・各々配慮はしているが、常に適切な対応ができていないか不安は感じている ・日頃から連絡を密にとり、情報の伝え方、内容を精査し、丁寧に伝えている(7) ・情報共有を常にするようにしている(3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの先生以外も声かけをして下さっている ・連絡ノートや必要に応じて電話を下さり、配慮されている(1) 	
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報について子どもや保護者への発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学園だより、クラスだより、給食だより、保健だより等で発信している(10) ・毎月の親の会で行事説明等を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、おたよりを頂いている(1) ・ホームページを探したけど見つからない、見ていない(1) ・クラスだよりや学園だよりはわかりやすい 	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	<ul style="list-style-type: none"> 持ち出し簿による管理を行っているが、内容、方法、返却確認については検討が必要(1) 園外に持ち出す場合は、管理職に報告し持ち出し簿に記入している。また、取り扱いにも十分留意している(9) 名前の書いているものは封筒に入れて手渡しするなどしている 個人情報が漏れないよう必要に応じ守ることを徹底している 	<ul style="list-style-type: none"> 注意して頂いている(1) 	個人情報の管理について、事業団の「個人情報取扱規程」「電子計算機処理に係るデータ保護管理要綱」に則り見直しを行う
	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	<ul style="list-style-type: none"> 療育の説明、個別支援計画の説明の中で、保護者にも周知するよう努めている 感染症が出た場合は、園やバスに掲示して周知し、感染拡大を予防している(3) 定期的にマニュアルの確認をし、職員への周知に努めているとともに、改訂・作成を行っている 緊急時の連絡ツールとして「ミマモルメ」を使用している 	<ul style="list-style-type: none"> 配布、説明もして頂いている(2) 自分がわかっていないだけだと思うので、園に確認させて頂く 	親の会等で説明する機会を作る
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、避難訓練(火災、地震、津波)を実施している(14) 防犯(不審者対応)訓練は、2年に1回実施している(4) 職員は定期的に救命救急講習を受けている 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に訓練は行われている(2) 	
	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> 日々の会議等で確認している 療育のなかで、子どもと関わる時の配慮店や注意点等の指導を受けている(3) 年に1回研修を実施して適切な対応ができるようにしているが、今年度はまだ未実施である(1) 		
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	<ul style="list-style-type: none"> その都度、職員間で話し合い、会議で協議し対応の周知を図っている 子どもの姿に応じて、安全を優先するために行う場合は全体で確認し、対応の周知を図っている 保護者に対しては、状況を説明し了承を得て、同意書を頂き個別支援計画にのせている(11) 		
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> アレルギーのある園児については、医師の指示書に基づき、対応食を提供している。また、マニュアルを作成し職員間で確認している(4) 毎月の献立表を職員間で確認し、保護者にも確認して頂いている(6) 朝のミーティングでアレルギー対応の有無を確認し、水分補給時、給食時共に厳重に対応している(6) 年に1回、エピペン研修の実施している 		
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 迅速に報告し、報告書を作成するとともに、その都度会議で共有し再発防止に努めている(14) 		